

# 改訂版発刊に際して

日本リウマチ学会では、関節リウマチ薬物治療におけるアンカードラッグであるメトトレキサート（MTX）の使用にあたって、日常診療の指針となるべく情報を発信してきた。日本リウマチ学会MTX診療ガイドライン策定小委員会（現・MTX診療ガイドライン小委員会）は、2010年9月にMTX診療ガイドラインを作成、その後、MTX承認用量が週8mgから16mgへ増量されたのを機に2011年に「関節リウマチ治療におけるメトトレキサート（MTX）診療ガイドライン」として出版し、添付文書の改訂などを経て、2016年にはガイドラインの改訂版が作成されて今日に至っていた。この間、MTXに関するエビデンスの集積は進み、関節リウマチを取り巻く診療環境も大きく変化するなかで、それら最新の情報を組み入れた改訂版の発行が求められていた。一方、MTXにおいては、その用量や安全性上のシグナルなど、国内外のエビデンスギャップが大きいことを考慮しなければならない。したがって、今回の改訂では、多くの国外エビデンスが評価対象となるGRADE法によるガイドライン作成ではなく、エキスパートオピニオンを中心とした従来通りの方法を踏襲して作成することが委員会で決定された。このため、従来のガイドラインという名称ではなく、今回の改訂にあたっては、より適切な名称として、『手引き』を採用した。その内容は、関節リウマチ診療の経験豊富なエキスパートによる意見や検討・討議の結果が反映され、随所に文言として表現されている。時代の要請に応えるためできる限り多くの情報を収集し、かつ日本における診療実態やエビデンスを考慮されて完成まで漕ぎ着けた、大変なご苦労が伺われる。亀田小委員会委員長を中心に各委員の御努力にあらためて感謝を申し上げたい。誰一人として同じ経過を辿るものはないくらい多様な治療反応性や安全性を示す薬物治療のなかで、アンカードラッグとしてのMTXの位置づけは数十年間揺るぎないものがある。この「関節リウマチにおけるメトトレキサート（MTX）使用と診療の手引き」が、先生方のよりよい関節リウマチ治療実現に向けての一助となることを願って止まない。

2023年1月

一般社団法人 日本リウマチ学会  
理事長 竹内 勤